

# 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社オフィスパフォーマンスラボ
公演団体名	TEAM パフォーマンスラボ

内容
<p><u>○ クラウン体験教室</u>    <u>クラウン講師</u>    <u>20分</u></p> <p>演者のエネルギーを観客に届けるためのカリキュラム。こども達に、ステージに立った時のイメージ体験をしてもらいます。正解を見つけるカリキュラムではなく、こども達自身のエネルギーを発散させることが軸になります。『人前が苦手』『目が合うと緊張してしまう』といった誰もが持つ苦手意識を緩和し、自由であってよい、という自己肯定感を高める手助けをします。</p> <p>&lt;カリキュラム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・発声練習     ハミング～お腹から目一杯の声出しまで三段階で行う。</li><li>・顔面 100 面相     顔をくしゃくしゃに動かして表情筋を和らげる。</li><li>・あいうえお体操     講師の発した単語でイメージするポーズをとる。単発音から何が想像できるのか？瞬発力を活性化させる。</li><li>・イメージ de ポーズ     講師の発した単語でイメージするポーズをとる。単発音からの応用編。連想ゲームの要素が盛り込まれており、顔の表情も意識してもらう。</li><li>・グループジェスチャーゲーム     相手の動きを受け入れる鏡合わせやグループでお題を動きで表現するゲーム</li><li>・オリジナルポーズを作ろう     ステージ立った時を想像して、自分の決めポーズを考える。</li></ul> <p><u>○ ジャグリング体験教室</u>    <u>ジャグリング講師</u>    <u>30分</u></p> <p>ジャグリングの基礎であるボールジャグリング(お手玉)を1個から3個まで挑戦します。持ち物として洗ってある清潔な靴下1組か軍手1組を持ってきてもらい、それぞれが丸めてボールを作り、やり方を指導します。1個のボールの投げ方からはじめて、どのように練習していけば3個のお手玉を習得できるのかを指導します。</p> <p>※本公演で共演をする生徒を10名程度事前に選出をお願いします。 ジャグリング体験教室の後半で、共演の生徒に、本番の流れを講師からレクチャーします。10名以外の生徒たちは、引き続きジャグリング体験となります。</p> <p>&lt;カリキュラム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・1個のボールの投げ方     右手も左手も同じように投げよう</li></ul>

自分に合った高さを探そう  
ボールを投げたときにどこを見るか  
ボールを投げてる間に手を叩く

•2個のボールの投げ方

日本のお手玉の投げ方とジャグリングの投げ方の違い  
右手先投げと左手先投げを交互に投げる練習  
3個のお手玉につながる2個の投げ方

•3個のボールのお手玉に向けて

2人1組で3個のお手玉をやってみよう  
3個持った状態で2個のお手玉をやってみよう  
3個のお手玉に挑戦しよう

○ 講話1/サーカスの歴史・暮らし編 クラウン講師 10分

数百年に及ぶサーカスの世界的な歴史と、日本でお馴染みの木下サーカスの現在までについて学んだあと、きらびやかな表舞台の裏側で、講師が実際に体験したサーカス巡業生活の様子も楽しくお話しします。サーカスの暮らしと学校の集団生活には、多くの共通点があります。まわりとの人間関係、集団の中での自分の役割など。こども達が普段感じているであろう小さな不安と、講師の実体験を照らし合わせることにより、その不安が少しでも解消され楽しい学校生活について考えるきっかけ作りを手伝います。

○ 講話2/クラウンの魅力編 クラウン講師 10分

クラウンとは、ピエロ・道化師の総称です。いつも失敗ばかりだけれど、どんなことにも一生懸命。そんな周りに笑いをもたらすクラウンたちを例にあげ、人間ひとりひとりの魅力の引き出し方や、自分や友達の短所が長所になる思考をこども達と考えます。

○ ミニパフォーマンス 講師2名 10分

本公演とは違う構成のミニショーを披露。ショーの中で、先生1名にお手伝いを依頼します。(その場で無作為にピックアップします) 前半の体験でこどもたちがチャレンジした技が、ショーの随所にちりばめられており、練習をすれば修得できるという目標への道筋を表します。

**タイムスケジュール (標準)**

実施 90 分前会場入り。  
会場セッティング、メイク等  
ワークショップ(60~90分)  
撤収 30~60分

**派遣者数**

2名

**学校における事前指導**

特になし

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	株式会社オフィスパフォーマンスラボ
公演団体名	TEAM パフォーマンスラボ

<b>演目</b>
『ミラクルイリュージョンサーカス』  マジックとサーカスが一度に楽しめる芸能の舞台です。人が浮いたり、消えたりする舞台装置を使った大掛かりなイリュージョンマジックと、空中芸、アクロバット、ジャグリングなど、肉体で生み出される数々のアクトと、会場を巻き込んだクラウン(道化師)によるコメディで構成されたサーカスが融合した舞台作品です。

<b>派遣者数</b>
演者7名 スタッフ3名 合計10名

<b>タイムスケジュール(標準)</b>					
到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
9時	9時～12時	13時～14時半	15分	15時～16時	16時半

<b>実施校への協力依頼人員</b>
必要なし

## 演目解説

### <イリュージョンマジック>

机が浮いたり、人が入れ替わったり、20キロにも及ぶ本物の大蛇出現など、浮遊、切断、出現といった、大掛かりな内容のマジックをイリュージョンマジックと呼びます。

アシスタントマジシャンを含めた3名構成で、体育館のような広い会場でも見やすいダイナミックな演目です。アッと驚く不思議体験は、子どもたちの好奇心を刺激し、想像力を伸ばしていきます。

### <サーカスアクト>

#### ●ジャグリング

複数のものを空中に投げたり、取ったりするボールやクラブなどのトスジャグリングや、ディアボロ(中国ゴマ)、デビルスティックなどの特殊な技術を使った曲芸。2mにもなる高一輪車やバランス芸を同時に行ったりもします。LEDを搭載した道具を使うことで、照明効果との複雑なプログラムのリンクや、学校名などをプログラムする特別感のある演出も可能です。

#### ●アクロバット

人間の肉体を駆使して行うサーカスの花形アクトです。いくつものローラーを積み上げた上でジャグリングなどをおこなう究極のバランス芸や、椅子を積み上げた上での逆立ち芸、人の上で人が逆立ちをする、ハンド・トゥ・ハンドなど、ダイナミックな演目です。

など

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

事前に実施するサーカスワークショップで教わったジャグリングの芸を、10名程度の生徒に本公演で発表していただきます。ジャグリングの技術だけでなく、クラウン体験教室で教わったステージに立った時の立ち振る舞いやポージングなどを実践します。

## 児童生徒とのふれあい

元々、サーカスは演劇や音楽などの舞台作品とは違い、テントの中で行われていました。演者が曲芸をやるリングと客席の垣根を取り払うクラウン(道化師)という役があり、テント内を駆け回りながら、観客と一体になる空間を演出します。

本公演でも、そのクラウンが演出の一部として先生や生徒をステージに上げる演目や会場全体に参加を促す演目などをおこないます。